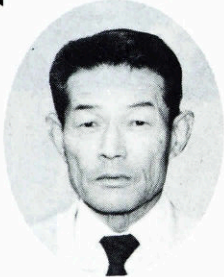


新年に 思う...

還暦に憶う



原田啓一 (生島)

S 4・5・17生

私も今年で60回目の正月を迎えました。時たま訪れる外孫から、「アレッ、おじいちゃん薄くなったネ。アッ、白髪もあるノ」と言われる昨今でしたが、新年にあたり改めて“還暦”の二字の意義を身にしてみています。

高齢化社会の進むなかで、昭和61年より、広域シルバー人材センターで高齢者の臨時的、短期的な就業機会の確保、提供の場のお世話をしています。会員は概ね60歳とは言え、まだまだバリバリ。お年寄りの年期と根気が活力のある町づくりの一助になればと、会員と共に心も体も健康で、頑張りたいと思います。

「旅」



山本烈子 (久原)

S 16・2・2生

縁あって三隅町に嫁して20数年、人々の温かい眼差しや励ましにささえられ、人生の折り返

し点である4度目の干支を迎えました。

新聞やテレビで、海外旅行や温泉旅行等の楽しそうな話題がにぎやかに報じられる。旅は不思議なものだ。旅を思うと特別の感慨が湧いてくる。まだ見ぬものへの郷愁とあこがれ、人々との出会いと心のふれあい……。

これを機に、更に人間としての幅を広げていくために、実(巳)のある努力を重ね21世紀に向かって、新しい旅立をしたいと思います。

先ず健康



古谷吉郎 (宗頭)

M 38・4・25生

新年のお慶びを申し上げます。巳の年生れの私は今年で7回目の干支を迎えました。若い時から

比較的的健康に恵まれ今日まで生き抜いて来たことを誇りとして喜んでます。然し最近になって身心共に老化現象が押し寄せ自分が若い時から好きだった読書や旅行が出来なくなったが、それには悲観せず残り少ない余命を大切に喜びと感謝の気持を持って生き続けたいと思っています。年頭に当り課題は、より健康に留意努力すること、数年前より難病に苦しんでいる荆妻の手厚い看護に専念取り組みたいと思っています。

生かされている私



池信雪江 (野波瀬)

T 6・1・26生

年も改まり、巳年を6回も迎えました。

花好きな私の花鉢から一本の茎がすーっと伸びて、ネリネが可憐に咲きました。毎日眺めても見あきない美しい花です。目には見えないが、鉢いっぱい広がった根のきれいに咲いてくれとの願いが実ったものでしょう。

自分だけでは何も出来ないとかわかっていても、頑固に思いを変えない、おはずかしい日暮しをしています。こんな私を支え、生かして下さる目には見えない大きな力が働いて下さいます。此の光に包まれ、お陰様と生きぬく力をいただいた幸せを味わう昨今です。